

## 2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	各部構法計画小委員会		主 査 名：信太 洋行 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)		委員長名：小野田 泰明 主 査 名：岸本 達也
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的)</p> <p>本小委員会は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「構法の情報化」に関する研究を推進すること</li> <li>・「構法史」に関する研究を推進すること</li> <li>・最新構法事例に関する講演会・見学会を企画し、研究と実務の交流を行うことの3つを目的とする。</li> </ul> <p>初年度：「構法の情報化」は前身の各部構法小委員会でも検討してきた構法写真データベースの開発を継続し、蓄積された情報の一部を「構法アトラス」として出版すること、また既存の構法情報の BIM 対応化を目標とする。 「構法史」については「近代建築作品の構法解説本」の出版を当座の目的とし、様々な建築作品の構法的分析について知見を広く蓄積することを目指す。 2 年度：初年度の活動に加えて、WG での成果等を小委員会の中で議論する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：信太 洋行 (東京都市大学) 幹事：熊谷 亮平 (東京理科大学) 委員：小見 康夫 (東京都市大学)、池尻 隆史 (近畿大学)、奥村 誠一 (青木茂建築工房) 加戸 啓太 (千葉大学)、石田 航星 (早稲田大学)、前島 彩子 (明海大学)、 小久保 彰 (駒沢女子大学)、岡路 明良 (鹿島建設)、門脇 耕三 (明治大学) 佐藤 孝一 (金沢工業大学)、江口 亨 (横浜国立大学) 岩村 雅人 (工学院大学) 角田 誠 (東京都立大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p><b>構法アトラス研究 WG</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員が保有する、建築構法関連写真の資産をネット上で共有し、それらを基に写真集「建築構法アトラス (仮称)」の出版に向けた準備活動を行う。</li> <li>・構法計画の主要な目的の一つである「部位のまとまりと生産のまとまりのコーディネート」を BIM 上で効率的に行うための調査・検討を行う。</li> </ul> <p><b>構法史 WG</b></p> <p>特定の近現代建築作品について、当該作品を取り巻く建築生産システムや現地の在来構法などを踏まえながら、その構法を分析し、分析結果を蓄積することを通じて、研究課題を明確にするとともに、構法史研究の見通しを整理する。</p>		
2021 年度予算	135,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：<a href="https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home">https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home</a></p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む：構法史 WG は 4 回)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	『建築雑誌』2021 年 6 月号で、構法史 WG が監修した「戦後日本住宅構法史年表」を掲載
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. 「構法の情報化」に関しては、委員が所有する構法関連の写真を小委員会で開発した写真データベースに蓄積し、ネット上でのアーカイブ実現を進めていた。しかし、個人アルバムのクラウド化が進んだ中、新規性が低いのではないかということから、異なる形でのアーカイブを検討した。 具体的には、構法教育の教材となる建築を対象に、BIM等のツールを利用したアーカイブ手法の検討である。委員の中には、①BIMの授業の中で構法を展開②構法の授業の中でBIMを活用するなどの工夫を既に始めており、それらを委員会の中で共有し、来年度からの活動に関して議論した。</p> <p>2. 「構法史」に関しては、京都での近世町家の改修の見学会他、『建築雑誌』2021年6月号で、構法史WGが監修した「戦後日本住宅構法史年表」を発表した。また、2022年度大会の研究集会として「構法史のアクチュアリティ」を企画・提案し、PDに決定した。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>今年度は、実務者と研究者間の交流を目的とした見学会やレクチャーを開催することが出来なかった。来年度は、BIMを用いた現代構法(PCaや大型木造等)の動向に関するレクチャーを開催し、委員会活動に反映する予定。</p>